

# イーハトーブ短歌の風

県内高校生の作品から

吉田史子選

題「見」



万華鏡無限の世界にみせられてもういつかいと光にかがやす  
 3年 飯岡 美咲  
 かすみ目にB6ワークの文字がブレ二重に見える深夜十二時  
 3年 菊池 結衣  
 共に寝て共に映画を見たりして私たくさん友達いるの  
 2年 高宮 雛那

## 中心の表現 具体的に

雨に濡れるマシサイが美しい  
 季節。毎年目にする光景だが、  
 今年のアシサイは今年だけ。季  
 節の花を見て目と心を喜ばせた  
 い。

1 首目、万華鏡はくぐるごと  
 回すたびに無限にさまさまな世  
 界を描き出す。一度として同じ  
 模様は現れない、その美しさは  
 魅せられた飯岡さん。もう一回  
 もう一回と光にかがし、果てし  
 なく見ていたい万華鏡の魅力を  
 シンプルに歌い上げた。3、4  
 句目は漢字を交えた方が下の句  
 の動作が際立つ。

2 首目、菊池さんは後遅くま  
 で定期考査の勉強に取り組ん  
 でいたのだろう。B6とはB5  
 の半分のサイズ。大学ノートの  
 半分だね。目がしよほしよほし  
 て小さめのワークの文字が二  
 重に見える。詠み方は具体  
 的で堂々としていて好感が持  
 てる。「深夜十二時」というき  
 つぱりとした体言止めも効果  
 的。

3 首目は心の中のつむやまの  
 ような高宮さんの作品。初句は  
 授業中の居眠り！ あるいは友  
 達が泊まりに来たのかな。一緒  
 に行動し、楽しく過ごす友達が  
 いるのだが、どこか不安が滲じ  
 り、そうではない何かを求めて  
 いるようである。「たり」を一  
 度だけ使用して他にも例があ  
 ることを示し、下の句を筑つ  
 つとした幼い口調でもためめ  
 とで心の揺らぎを表現して  
 る。

歌の中心があいまいに表現さ  
 れ全体がぼんやりとした印象に  
 なっている作品が見られた。惜  
 しい。「具体的」を心がけてね。  
 （原歌人クラブ副会長）  
 次回回は山田、7月12日に掲載

(岩手日報)

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。